



由比川河口、白糸の滝の近く、三島市の梅花藻の里。由比川近くで、スタッフの方と落ち合い、案内で由比川、白糸の滝で採取。由比の方とはここで別れ、三島へ。

三島で若いお母さんの案内で、元旅館の玄関へ。立派な松は取りにくいので、Mさんの案内で梅花藻の里へ。無事採取。

まな板の上の狸は、ここで熱海のご夫婦に渡されました。ぐるっと伊豆を回り、伊豆の熱川も通った（通っただけ）。土砂降りの雨にも遭遇。台風が近づいている。お昼は個人のお宅でご馳走になり、幾人か集ってこられて、短い時間だったが話をした。西瓜をいただいた。

それでも何とか松葉採取をほぼ予定時間内に終了。夜、若い人たちとの交流会。

私一人がお酒。お酒を飲むことを許してくれた皆さんに感謝。でも、もう少し早く着いて、温泉に入りたかった。次回は絶対温泉へ。

宿まで送ってもらって、風呂（温泉）に入り、部屋で松葉の仕分け。さすがに疲れた。案内して下さった方もきつとお疲れになったことでしょう。感謝。夜 12 時頃就寝。

## 9月1日（木）

朝6時半に迎えに来てもらい、昨日伊豆半島を案内して下さったご夫婦のお宅で朝食をいただく。お母さんも気さくな方であった。宿の部屋を出るとき、忘れ物の有無を確認されたのに、ちゃんと忘れ物をしてしまった（携帯電話）。私はあまり困らないのだが、困った人が幾人かいたようだ。ごめんなさい。それと携帯電話を送っていただいてありがとうございます。でも、スケジュールの変更は他人の携帯で修正できたし、まあ良しとしよう。

朝、熱海から新幹線で掛川まで。掛川から袋井へ。袋井で次の案内人と合流。

全て順調・・・だと思おうでしょう。世の中そうはうまく行かないようで、台風の影響による大雨で東海道線の下りが一部運休、大幅な遅れ。携帯電話はホテルにあるし・・・。まあ、し

ようがないね、と思いながら電車を待っていました。

携帯がないとこんなにも心安らかなのに、皆どうして携帯を持つのだろう。我家には携帯は一台しかなく、淡路島（家人と耕作する畑があります）へ出かける時と、どちらかが旅行へ出かけるときにのみ電源が入る。普段は携帯に束縛されることも無く自由なのです。

磐田で試料を採取。同時に湖西市で採取した試料の提供を受ける。磐田市の会員さんのお宅で、私と試料を採取してきてくださった方を含め3人で松葉の仕分け。犬が不思議そうな顔をしていた。あの犬に眉毛はあったかなあ。

磐田駅から再び電車に乗り浜松へ。W氏と合流して、浜北へ。公園で若いお母さんと落ち合って、公園の松葉を採取。お昼を自然食のお店風のお店でご馳走になる。女性4人と男性4人。ちょっとした合コンか。でも一人は小さな子供だったし、アルコールもなかった。



続いて、地元の会員さんの案内で、採取予定の松のある場所へ。個人宅の松で、手が入っているので、やはり採取は難しかった。そこで、ありそうな場所（県立森林公園）へ。無事採取。

温泉に入って、浜松の駅から新幹線に（もちろんビールを買って）。家に帰って、荷物を片付け。シャワーを浴びて、奥さんの帰りを待つ。今日は、奥さんは山岳会の集まりのある日なのだ。

## 9月2日（金）～

採取してきた松葉の測定開始。まず、松葉を測定容器に封入する作業。なるべく多くの量を容器に入れるために、強引に押し込むのだが、結構これが大変。松葉が抵抗してくるのです。今回一番泣きそうだったのは、親指の爪の間に松葉が刺さってしまったことです。難しい学問をしているわけではないので、頭を使わない分、このくらいの痛みは我慢しないとはいけません。

現在静岡で採取した試料の測定中です。

静岡県内の測定結果は、ブログに随時、掲載していきます。

ブログアドレス [http://kohno.at.webry.info/201109/article\\_1.html](http://kohno.at.webry.info/201109/article_1.html)

# 横浜市でホットスポット、市民の測定で判明！

横浜市で堆積物からセシウムの汚染6万3千ベクレル！！

市民の独自の放射能汚染測定で市が動き始めました！！

2011年9月19日 馬場利子記

横浜市港北区で、マンションの屋上の堆積物から **6万3000ベクレル** 検出。マンションに住む市民が独自測定し、9月17日、新聞報道されました。このマイクロホットスポットについて、情報を提供して下さったのは、横浜市職員のMさんです。

詳細な経過報告は、横浜ママパパの放射線日より

<http://yokohama-konan.info/kohoku2.html> に掲載。

この市民の測定値を知った横浜市は市内数か所を独自で測定し、新聞発表をすると共に、横浜市職員の話では、公立保育園の除染作業を行ったと言います。

現在、私立保育園では横浜市による測定は行われていないとの事で、横浜市におけるマイクロスポットの確認と、私立保育園への対応も同様に行われるよう、関係者の皆さんの行動を期待します。

今回の横浜市民が独自に行った土壌測定は、空気中の放射線量では知ることが出来なかったマイクロホットスポットの発見を可能としました。

3・15の高濃度汚染を受けた地域(静岡県も含む)は、横浜市に限らず、子どもたちを守るために、正確な土壌(学校・保育園・幼稚園など)の測定を行う必要性を明らかにしました。

福島原発による高濃度放射能汚染は、福島県内に留まらず、広範囲に及んでいる事が分かりました。行政による土壌汚染測定が行われていない地域で、どの様な対処が必要なのか、私たちも静岡市、静岡県に質問していきたいと思えます。

この横浜市の汚染状況について、当測定室のアドバイザーでもある京都大学原子炉実験所の小出裕章さんは、右のようにコメントを寄せてくださいました。

すごい汚染ですね。

福島原発事故が起きる前にはセシウム 137 は土壌1kg当たり、数ベクレル程度しか存在していませんでした。

日本の法令(放射線を放出する同位元素の数量等を定める件)では Cs-137 の場合、1g当たり10ベクレルを超えれば、放射性物質になります。1kg当たりになれば1万ベクレルですので、測定された土壌は放射性物質です。当然、厳重に管理しなければいけません。

また、日本には「クリアランス」と呼ぶ制度があります。

原子力発電所を解体した場合に、膨大なごみが出るため、それを仕分けし、汚染度ごとに管理することになりますが、ある一定レベル以下のごみは放射性物質で汚染されたごみとしての規制を外してしまおうとする制度です。その制度で、規制を免除されるセシウム137の濃度は1kg当たり100ベクレルです。それに比べればはるかに高い濃度です。

しかし、福島原発事故は事実として起きてしまいました。

福島県を中心として大地そのものがすでに膨大な汚染を受けてしまっています。それらすべてを放射性物質として管理できるのかと問われれば、難しいと答える以外ありません。

私自身も一体どうすればいいのか、さっぱり分かりません。

今できること、そしてしたいことは、子どもが遊ぶ場所だけは綺麗にしたいということです。

2011/9/20

小出 裕章

## 堆積物6万3000ベクレル検出

港北のマンション市民が独自測定[朝日新聞]

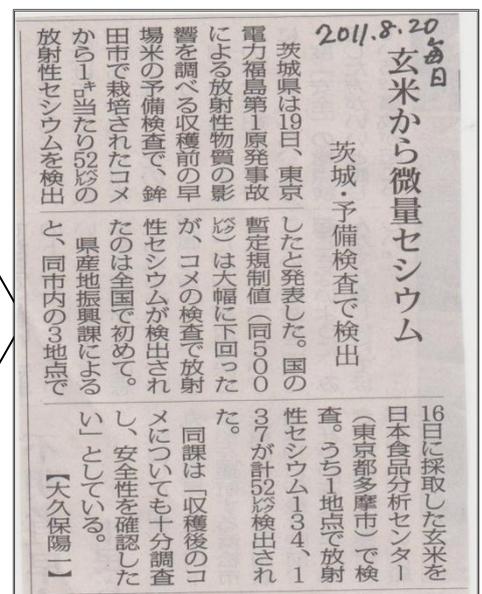
横浜市港北区のマンション屋上の堆積物から **6万3000ベクレル** (1キロ当たり)を超える高濃度の放射性セシウムが検出されたことが、民間の分析機関の調べで分かった。この機関に堆積物を持ち込んだ市民が市に結果を報告。

事態を重く見た市も調査を始めた。週明けにも結果が判明する。

突然トピックス

8月20日

毎日新聞



# お知らせ

測定室の企画プログラムです。

上映会は、つながりのある人たちと共催します。

ドキュメンタリー映画

## チェルノブイリ・ハート 上映会 & アフタートーク

1986年4月26日

チェルノブイリ原発事故発生。

それは当時生まれた子供たちにたくさんの災いを及ぼした

放射線の影響で心臓に重度の障害をもった子供たち、

それを「チェルノブイリ・ハート」と呼ぶ。

ベラルーシでは現在も、新生児の85%が何らかの障害を持っている。

25年前に起こった原発事故はまだ終わっていません。

そして、福島。いま、日本で、何が出来るのか？



事故から25年...  
まだ終わっていません

2011年11月6日(日) サールナートホール 1F ホール

映画上映会 (61分)

アフタートーク (60分)

『いま、私たちにできる事』

午前の部 10:30 ~ 11:35

11:45 ~ 12:45

午後の部 14:00 ~ 15:05

15:15 ~ 16:15

\* 各回 30分前開場 全席自由

特別鑑賞券 1000円

この券は共催団体各所で販売。

シネ・ギャラリーで上映される。

『あしたが消える』 10/29(土)-11/11(金)

『チェルノブイリ・ハート』 11/12(土)-11/25(金)

でも使用できる共通券となっています。

講師 河野 益近氏

静岡放射能汚染測定室アドバイザー

京都大学大学院工学研究科原子核工学

チェルノブイリの現地調査も行い、被害状況にも詳しい

河野益近さんに、『いま、私たちにできる事』と題して、

午前と午後の2回、お話していただきます。

【主催】 お問い合わせ プラムフィールド・静岡放射能汚染測定室 TEL・FAX 054-209-2021

【共催】 会場 サールナートホール・シネギャラリー TEL 054-250-0283



## 第4回

### 『放射能を話そう♪』

日時: 10月24日(月)

13:30~15:00

場所: プラムフィールドにて

参加費: 測定室会員 300円

一般 500円 (お茶付)

特別のゲストはありませんが、少しずつ行政の対応の違いが出る頃です。

自分だけの不安にとどめず、情報交換をしながら、笑顔を忘れないように、楽しい一時をご一緒にお過ごし下さい。

# トピックス

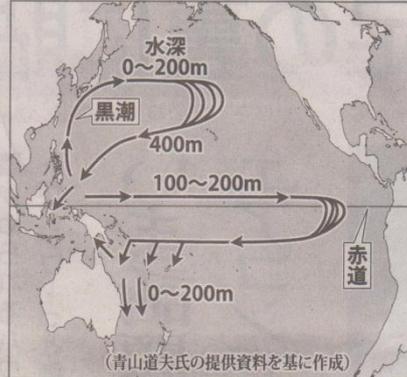
「魚の回遊について」

2011年9月15日

毎日新聞

## 北太平洋を時計回り循環

推定されるセシウム137の流れ



(青山道夫氏の提供資料を基に作成)

東京電力福島第1原発 後、北太平洋を時計回り事故で海に流出した放射能に循環し、20~30年かけセシウム137は、黒潮で日本沿岸に戻るとの予測に乗って東へ拡散した。測を気象研究所の青山道

### セシウム137 気象研など試算

### 20~30年かけ日本沿岸に戻る

夫主任研究官らと電力中0.001の比較的浅い部分央研究所の研究チームがで東へ流れ、日付変更線まとめ、14日発表した。の東側から南西方向に水海に直接出たセシウム深400mほど運ばれる。137は、5月末までにフィリピン付近から一部3500テララット(テラは本沿岸に戻る。フィリピンに大気中へ放出された後ン付近からはインドネシアに海に落ちた量が1万テララット程度あるとみておさら40年後には大西洋に到達する流れのほか、赤道に沿って東に進み太平洋の東端で赤道を越え、赤道南側で西向きに流れるルートもある。青山さんは「全体像を把握するには、太平洋全域での高精度の測定が必要だ」と話している。

2011年8月30日 毎日



水産庁資料から

## ■ 測定室活動日誌

- 8月27日(土) 測定器、解析不能となり測定中止。
- 8月30日(火) 測定器の高圧アンプを交換し、再構築。  
10:30～12:00 第2回“放射能を話そう♪”  
報告あり  
13:00～17:00 静岡県中部松葉採取  
(島田、御前崎、牧之原、静岡)
- 8月31日(水) 測定器補修完了。  
(河野さんにアンプを貸していただき、測定器復活！)  
5:30～18:00 静岡県東部松葉採取
- 9月1日(木) 8:00～16:00 静岡県西部松葉採取
- 9月4日(日) 13:30～16:00 浜松市浜北区にて、学習会  
(講師として馬場)
- 9月11日(日) 13:00～16:00 神奈川県相模原市にて、講演会  
(講師として馬場)
- 9月12日(月) 13:30～16:00 測定室スタッフ会議
- 9月20日(水) 『測定室だより』第3号の編集作業開始。
- 9月22日(木) 10:00～11:30 プラムフィールド・スタッフミーティング
- 9月26日(火) 『測定室だより』第3号、印刷、製本作業

## □ プラムフィールドの窓・測定室の風

9月に入って、暑さが戻ったり、肌寒かったりと天候も定まりません。静岡県内は豪雨で新幹線が止まったり、またまた、大きな台風が大雨を降らせています。集中豪雨で避難を余儀なくされている地域の方は、不安な日々を送っていらっしゃる事と思いますが、被害が少しでも少ない事をお祈りしています。

9月4日、静岡県に降った豪雨の際は、激しく窓を打つ雨粒を見て、“街を除染してくれている！”と思わずには居られませんでした。

放射能の空間線量が各自自治体で測定され、公開されるようになりましたが、街の土壌が測定される事はなく、すでに事故から半年が過ぎました。

そして、横浜市の街中の土に高濃度のセシウム汚染が測定されました。マイクロ・ホットスポット 63,000 Bq/kg：横浜市で見つかった汚染値は果たして、他市の出来事なのでしょうか？

新米の季節になりました。測定室ではお米の測定依頼が多く寄せられています…。

## 『スタッフのつぶやき』

〜今回のスタッフ紹介は、榛葉さんが加藤さんを紹介します〜

加藤さんはITのスペシャリストです。私たちのホームページのデザイナーで、整理整頓の達人でもあります。いつもみんなが使いやすいように気を配ってくれる優しい人です。ありがとうございます！

「月曜日の女」なので、その魅力をもっと知りたい方は月曜日の測定室に是非どうぞ。

(榛葉)

化学物質を扱う仕事をしている私とその影響について知ったのは、子どもたちが五歳三歳、一歳になった時。「もっと早く、妊娠前に知っていたら…」と思ったこともありましたが、今では「あの時だから…知ることができた」と思えます。

還暦前後の私たち測定室スタッフも、放射能のエネルギーのおかげか、今まで以上にパワーアップしています。娘のような若いママさんとともに学びながら、「百匹目のサル現象」も夢ではないかも…。

(加藤光代)